Report-III

オートクチュールドレスの構造と特殊素材の縫製技法の研究 - Ⅲ

2022 年度桑沢デザイン研究所

教育研究助成金研究成果報告書

辺見小百合

All spangles Evening dress	All spangles Evening dress
Idea sketch 1	Idea sketch 2

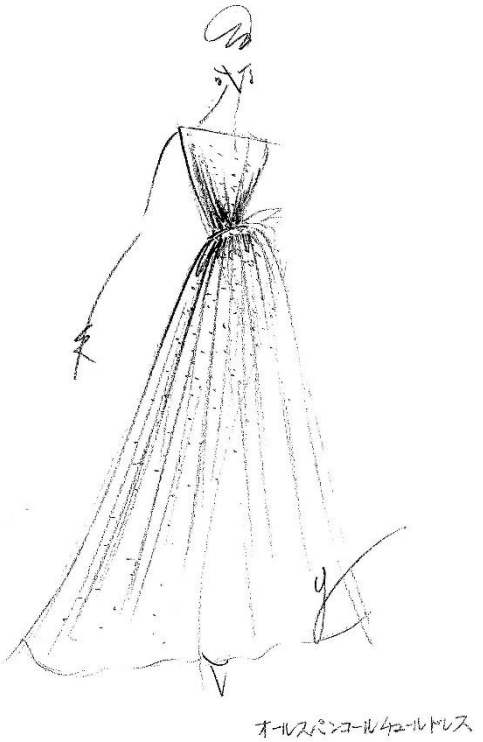
２０２２年度研究助成金によるドレスの制作を継続して行った。
研究タイトルは「オートクチュールドレスの構造と、特殊素材の縫製技法の研究Ⅲ」とした。

２０２１年度に引き続き特殊素材でオートクチュールのイブニングドレスを仕立て、市販のプレタポルテとの縫製技法と仕様の違いや、特殊素材の扱いなども研究した。

また、その技法を授業で紹介することを目的に、３年計画で３着のドレス(特殊素材別)を制作した。

今回はスパンコールという生地を使用し、オートクチュール縫製技法の代表的なドレープという仕様で制作した。

制作方法は土台のベースを制作しその上にスパンコールの生地でドレープを１本１本縫い止めながら形成していく技法である。
今回は本番のドレス制作の前のモデリングも参考としてレポートに掲載した。

All spangles Evening dress	All spangles Evening dress
	
Idea sketch 3	Idea sketch 4

研究背景は前回に引き続き以下の通りである。研究所では長年オートクチュールの技法を使い制作する授業(植田いつ子先生)があったが、総合デザイン科となり現在はその技法を学生達に伝える機会も少なくなった。この研究を通して得た知識を多くの学生に伝えたいとの目的がある。

今回もドレスはオートクチュールの特殊技法で制作するにあたり、サロンドヨシノの吉野雅彦先生に制作を依頼した。３着目もイブニングドレスになる。

吉野雅彦先生は植田いつ子先生のアトリエで長年、上皇后陛下の衣装を仕立てたという大きな実績があり、その卓越した特殊技法を今回のドレスの制作過程で多く反映されている。

All spangles Evening dress	Silk Chiffon Evening dress
Idea sketch 5	Idea sketch 6

今回のドレスで使用した高級素材のスパンコール生地とは、美しい輝きを持つ装飾品で、ファッション界において重要な役割を果たしている。スパンコールとは光を反射させるために使用する服飾素材で穴のあいた金属やプレスチックの小片のことを言うことが多い。

スパンコール生地について詳細に説明する。

歴史: スパンコールは古代エジプト時代から存在し、その輝きと美しさから王族や特別な場に用いられてきた。その後、中世ヨーロッパやルネサンス期には、貴族階級の間で広く愛用された。20 世紀に入ると、アメリカのハリウッド映画の衣装デザインにも取り入れられ、一般にも広まった。

特徴: スパンコールは薄くて輝く円盤状の小片で、光を反射して豪華な輝きを生み出す。様々な色やサイズがあり、光の当たり具合で美しい色の変化を見せる。ファッションアイテムにスパンコールを取り入れることで、個性的で華やかな印象を演出することができる。

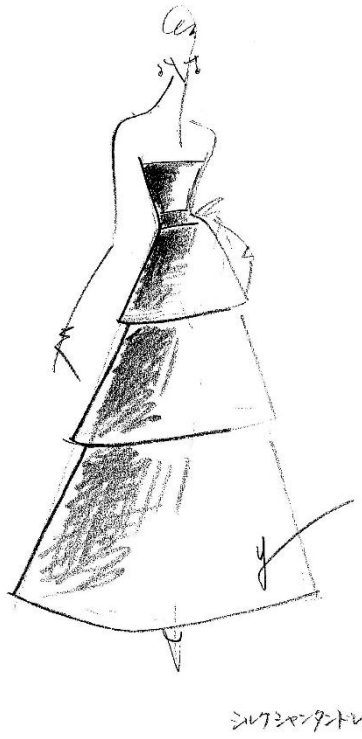
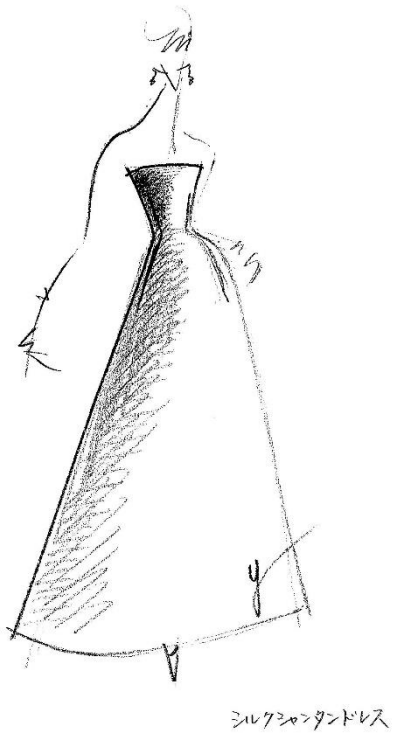
使い方: スパンコールは主にファッションアイテムの装飾に使用される。

Tulle Evening dress	Tulle Evening dress
Idea sketch 7	Idea sketch 8

ドレスやトップス、バッグ、靴など、様々なアイテムにスパンコールを縫い付けたり、接着剤で貼り付けたりして使用される。特別なイベントやパーティー、舞台演出などでよく見られる。

生産国と製造方法: スパンコールの主な生産国は、インド、イタリア、中国、日本などである。製造方法は、主にプラスチックやセルロイドから薄く切り出された円盤を、金属箔や薄い金属でコーティングして輝きを持たせる方法が一般的である。また、手作りのスパンコールもあり、熟練した職人によって製造されることもある。

ファッション愛好家やデザイナーにとって、スパンコールは無限の創造性を発揮できる素材である。その輝きやカラーバリエーションは、ファッションアイテムに独自の個性と輝きをもたらす。手作業で装飾することで、一つ一つのアイテムに独特の美しさと温かみを加えることができる。スパンコールを使った特別なドレスやトップスは、パーティーやイベントで注目の的となり、洗練されたスタイルを演出できる。

Silk Taffeta Evening dress	Silk Taffeta Evening dress
	
Idea sketch 9	Idea sketch 10

使用したドレープ技法について説明する。

ドレープとは、「布で覆う」「衣類などを優雅にまとわせる」という意味である。布を揺らしたときに現れる自然なたるみ、流れるようなひだを指す。 優雅で、やわらかい印象を与えるため、ドレスやスカート、ワンピースなどレディース用衣服の装飾として取り入れられている。ドレープを制作するために使われる生地にはさまざまなものがあるが、キメの細かい素材を使用することが多い。今回の技法は、ベースの型に布地のひだを重ねていく方法である。

ドレープ技法の基本的な手順は以下の通りである。

準備と計画: 最初に、どのような形状やデザインを作りたいかを計画する。ベース型の寸法や形状を考慮しながら、ドレープの位置やラインを決定する。

布の選択: ドレープする布地を選ぶときは、柔らかく流れるような素材が一般的で、絹やシフォンなどがよく使用される。

ドレープを作成: ベースの型に布地を重ねたり巻いたりしてドレープを始める。布地をピンで留めたり、クリップで固定したりしながら、望む形状やデザインを作り出す。
調整と修正:ドレープを入れながら、デザインが予想通りになるように微調整する。ベース体の形や動きに合わせて、ドレープの位置やシルエットを調整し、バランスを取る。

ドレープ技法の効果は、自然な流れや立体感を持つデザインを生み出すことができる点である。人体に合わせて布地を配置するため、着用時に美しいドレープやシルエットが現れる。また、繊細な素材を使用することで、柔らかな動きや軽やかさを演出することも可能である。

ドレープ技法はファッションデザインにおいて、布地の性質や体の形状を活かした美しいデザインを生み出すための重要な手法であるが高い技術が必要となる。

「Diamond Frost」

ドレスのイメージに合わせてネーミングすることにした。
白・キラキラした小さいスパンコールのイメージから雪のような繊細な花が次々と咲く低木のユーフォルビア・ダイアモンドフロストがイメージ通りだったので「Diamond Frost」と命名した。

ユーフォルビア・ダイアモンドフロストは、別名で雪華草（ゆきはなそう）と呼ばれる。株一面を覆うように咲く白い苞が、まるで雪のように見えることからその名が付けられたと言われている。

トウダイグサ科の多年草で、ユーフォルビア属の原種は 2000 種以上あり、形態も一年草、宿根草、多肉植物、低木と多岐にわたる。

今回のメインドレスはスパンコール生地、アンダードレスはサテン生地、パニエは薄手のサテン生地の３アイテムである。

パニエとは、下着やファンデーションの一種で１８世紀にヨーロッパでドレスなどのスカートを美しい形に広げるため、その下に着用するアイテムのことである。

Idea sketch 1・Swatch

1，ドレス生地スパンコール

2，アンダードレス生地　サテン

3，パニエ生地　薄手サテン

Dress sewing process

ドレス縫製工程

　モデリングとは服を本番の生地で作る前に、その形やデザインを確認するために別の生地で制作する。服の制作やデザインにおいて一般的な手法である。
アイデアの形成: まず、服のデザインや形を考える。これはスケッチやデザイン画を通じて行われることが多い。具体的なデザインやスタイル、服の長さやシルエットなどが決定される。
パターンの作成: アイデアが固まったら、服の形に合ったパターンを作成する。パターンは、服の各部分を正確に作成ためのテンプレートである。これにより、後で本番の生地で制作する際に正確なサイズと形を保つことができる。
仮縫い:モデリングでは、本番の生地ではなく、試作用の生地を使用する。この生地を使って、実際の服の形に合わせて仮縫いを行う。これにより、デザインの詳細な調整やフィッティングの確認を行うことができる。

1，上身頃の上部分ベースを制作する

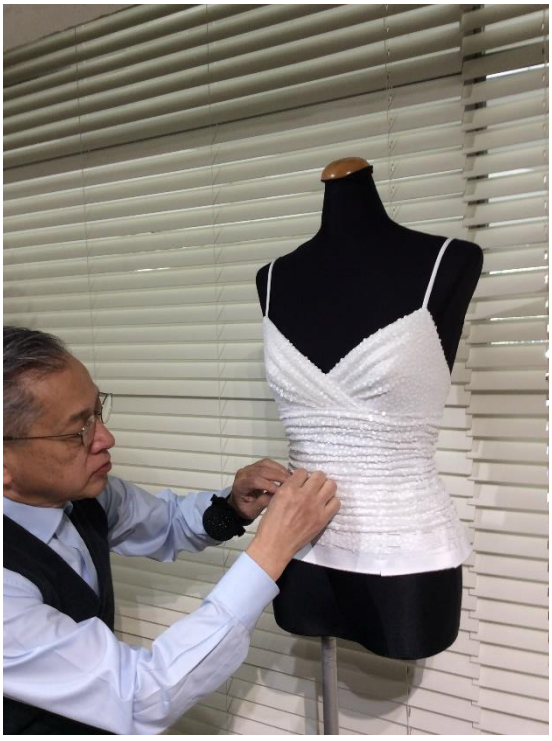
2，上身頃の下部分ベースを制作する

3，ベースにドレープを入れて制作

4，ドレープを固定する

5，身頃の下部分ベースを制作する

6，身頃のベースにドレープを固定



7，ドレープ制作中の写真

8，身頃にスカートのベースを固定

９，スカートにギャザーを入れる

１０，スカートのギャザーを固定

１１，身頃とスカート固定

１２，完成

正面写真

右側写真

後側写真

正面写真

モデリング　　正面写真

モデリング　　後側写真

研究テーマ：オートクチュールドレスの構造と
特殊素材の縫製技法の研究-Ⅲ

作品　　イブニングドレス
生地　1，　　主の生地スパンコール
組成繊維　　ポリエステル 100%
スパンコールのベース生地　ポリアミド 100%
生地　2，　　アンダードレス　サテン
組成繊維　　ポリエステル 100%
生地　3，　　パニエ　薄手サテン
組成繊維　　ポリエステル 100%
サイズ　　７号サイズ
発注先　　株式会社　サロンド ヨシノ
カメラマン　　清田　千裕